

CASBEE[®] 新築[簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2008年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)新YS計画工事	階数	地上3F
建設地	京都市山科区地藏寺南町9番1 他	構造	S造
用途地域	準工業地域、第一種中高層住居専	平均居住人員	0 人
気候区分		年間使用時間	5,110 時間/年
建物用途	事務所、物販店、工場、	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2011年3月 予定	評価の実施日	2010年6月28日
敷地面積	8,039 m ²	作成者	
建築面積	4,661 m ²	確認日	
延床面積	9,270 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 大項目の評価(レーダーチャート)

2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.4

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項	
総合 主用途が物品販売業を営む店舗であり、お客様のための環境および近隣への環境に及ぼす影響を考慮に入れた建築計画としました。 また、事務所は将来入室予定であり本工事においてはスケルトンの設計としました。 したがって設備機器による消費エネルギー量は現段階においては低い数値となった。	その他 冷凍設備機器からの廃熱を利用した床暖房設備を採用した。 店舗内において準備作業灯を細かな系統分けを行い営業時間外の無駄な照明を使用しない計画とした。
Q1 室内環境 売場部分については、快適に買い物ができる事に配慮した計画を行なった。バックヤード部分については、生鮮食品を取り扱うので衛生面に配慮した施設を計画した。駐車場部分については、走行車両の排気ガスがこも	Q2 サービス性能 物品販売店舗の建物として過剰にならない範囲において可能な限り安全性、耐久性に富んだ建築となる様計画した。
LR1 エネルギー 可能な限り高効率型の設備機器を採用した。 蛍光灯を主体とした照明計画とした。 ショーケースからの冷気の影響を考慮した空調換気計画とした。	LR2 資源・マテリアル 可能な限り節水型の衛生機器を使用した。 外装、内装から過剰な装飾を廃し無駄な建材を使用しない計画とした。
	Q3 室外環境(敷地内) できるだけ雰囲気のある植栽計画を行なった。 建物外観は景観条例のコンセプトに倣い極力周辺景観に馴染むデザインとした。
	LR3 敷地外環境 大規模小売店舗立地法の指針、関係官庁との協議に従い、周辺環境への影響を最小限にとどめた交通計画、騒音対策、臭気対策を行なった。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される